

令和2年度 第1回とよた森づくり委員会 会議録

日時：令和2年10月16日（金）午後1：30～4：15

場所：豊田市役所環境センター5階 環51会議室

出席者：別紙参照

資料：別紙参照

※以下、敬省略

1 開 会

●森林課長 川合

- ・令和2年度第1回とよた森づくり委員会を開催する。

※とよた森づくり委員会会長挨拶

●片桐会長

- ・コロナによってキャンプがブームになり、マイキャンプ場にすべく山林を購入するような人が増えており、山林を扱う不動産業者が忙しくなっているというニュースがあった。
- ・様々な影響がでているが、森林整備、森林保全を進めていくうえで、プラスの方向に利用していけるとよい。

※豊田市より挨拶

●農林振興室長 高部

- ・とよた森づくり委員会は、例年春に開催していたが、今年はコロナの影響でこの時期になった。
- ・コロナの影響で、上半期は市の各種イベントも中止または延期になった。林業では、市内においても原木価格が下落し、需要が回復していない状況である。
- ・令和2年7月豪雨では、市内においても林道など林業被害が発生した。九州の球磨川が氾濫し、熊本県では60名を超える死者が出たことは記憶に新しいところ。想定を超える集中豪雨は全国で頻発しており、災害に強い森づくりは豊田市においても重要。
- ・本日は、前年度の実績報告や今年度予算などの報告があるが、協議のほどよろしく願いたい。

※オブザーバー紹介

●林務課長 川端

- ・日頃より愛知県の林務行政にご協力とご理解をいただいております、この場を借りて感謝したい。
- ・豊田加茂農林水産事務所では森林整備課と、林務課の2課で森林行政を担っているが、本委員会においては、林務課から参加させていただく。

2 議 事

●片桐会長

- ・それでは、議事（1）について事務局より説明をお願いしたい。

（1）令和元年度事業実績について

- ※各担当長より、資料1（豊田市森づくり白書（以下「白書」という。））について説明

<質疑応答>

●鈴木（禎）委員

- ・白書41pの付表22緑の雇用担い手対策事業に係る人材育成実績について、110人採用して、現在の在籍者は37名となっており、定着率が低いがどういう理由か。

●豊田森林組合青山氏（オブザーバー）

- ・国の雇用改革の影響で平成19～21年の採用者が非常に多かったが、比例して林業に適さずリタイアする人も多くなり、在籍率の低下の一因となっている。

●國友委員

- ・白書18p水源かん養モニタリングの観測結果について、切置き間伐により表面流量が大幅に減少したとあるが、どういう理由か。

●森林課 鈴木（春）

- ・理由はいくつかあるなかで主な要因としては、間伐により樹幹流が減少し、表面流量が減少したと理解している。

●蔵治委員

- ・まず理由がいくつかあるなかで、主要因は特定できていない。
- ・間伐をすると、降ってくる雨のうち地面に到達する雨量は増加する。鬱蒼とした森林のなかでは、雨滴が地面に到達する前に、樹木や枝葉に遮断されるなかで、雨が蒸発することによって、20%くらいは地面に到達していない。なので間伐すると、林内に空間ができることから、樹冠遮断率20%が10%くらいに落ち、地面の到達する雨量は増える。地面に到達した雨は、染み込むものと染み込まないものに分かれ、染み込まないものにあたる表面流量が大幅に減少したということは、染み込む量が大幅に増えたということ。表面流量が減少した理由は、間伐により幹を伝って流れる雨量が減ったというのが1つ。もう一つは密集した人工林のなかで、幹を伝わらずに落ちてくる雨粒があり、林内では通常の雨粒より大きいサイズで落下していることが分かっており、その雨粒は地面を叩いて、土を破壊して表面を流れてくるが、間伐によって雨粒の直径が通常の雨粒サイズのように細くなり、土に染み込みやすくなっている可能性もある。また、切り置き間伐であることから、切った丸太を置いておくので、丸太自体が表面流を遮断して、減少に繋がった可能性もある。
- ・これらそれぞれの要因が複合的に絡んでいるなかで、現時点ではどれが一番重要かつ比重が大きいかは分からない。メカニズムは話したとおりだが、少なくとも切り置き間伐は、大雨が降った時に一気に雨が川に流れることを抑制する効果があるということは証明されたと思う。

●片桐会長

- ・白書 6p にある高性能林業機械導入補助金、高性能林業機械更新補助金について、実績がないが、ニーズがないのか、導入する意向がないのか。

●森林課長 川合

- ・令和元年度においては、豊田森林組合のほうで導入及び更新の予定がなかったが、来年度以降更新等の計画もあり、たまたまタイミング的に令和元年度の実績がないだけである。

●蔵治委員

- ・白書 14p にとよた森林学校の出前講座の開催実績があり、令和元年度は開催数 4 とあるが、おなじく白書 43p で実績の履歴をみると大幅に減少していることが分かるが、どのような経緯か教えてほしい。

●森林課 鈴木（春）

- ・平成 30 年度までは専属の担当者がいたことから記載のとおりの実績となっているが、令和元年度からは森林課職員だけでなく、外部の講師と連携しながら実施する仕組みづくりを行って、次の体制へ移行する準備段階であることから一時的に減少している。

●片桐会長

- ・それでは、議事（2）について事務局より説明をお願いしたい。

（2）令和 2 年度当初予算概要について

※森林課深谷副課長より、資料 2 について説明

<質疑応答>

●鈴木（辰）委員

- ・森林環境譲与税について、豊田市にどれくらいの歳入があり、どのような使途で考えているのか教えてほしい。また、今後市民の森林政策のために税負担が増えていくなかで、各事業の効果や妥当性はより厳密に検証されていくことが予想されるが、森林課としては今後の展望をふまえてどのような認識をもっているか教えてほしい。

●森林課 小山

- ・森林環境譲与税については、まず金額面において令和元年度は約 6 千万円、令和 2 年、3 年度は 1 億 3 千万円程度、令和 4、5 年度は 1 億 6 千 8 百万円程度、令和 6 年度以降においては 2 億円を超える金額で豊田市に譲与される予定となっている。
- ・続いて使途については、なかなか国から指針がはっきり示されない現状がある。森林整備、普及啓発、人材育成、木材利用と大枠の 4 つの要素は示されているが、森林整備のどこまでが OK なのか等、ラインが不明確。
- ・そのような状況であることから、切り置き間伐、人材育成、木材利用など確実な分野から財源を充てつつ、情報収集を行いながら、適宜新しい施策に割り当て、森づくりを促進させていきたいと考えている。

●藤富委員

- ・具体的施策（3）地域材の生産・流通・利用推進PJのなかで、林道開設、作業道、搬出路等は突発的な自然災害の影響を大きく受けるものであるから、流動的に他の予算から割り当てることができたり、もっとフレキシブルに予算が使えるような仕組みがあると良いと思う。

●森林課長 川合

- ・林道整備に関して、国や県から財源をいただき、地域森林計画を踏まえて事業を行っている。また日頃の維持管理について、林道パトロールが1か月で全ての林道を回るなど、大きな災害に繋がらないよう予防的な管理も合せて行っている。突発的な災害については、補正予算等で対応していきたいと考えている。

●片桐会長

- ・補助金の枠のなかでやる事業が圧倒的に多い。補助金ゆえに用途が縛られており、それをフレキシブルに使うのは一定の限界がある。強いて言えば市の単独事業であれば、ある程度の融通がきくのかもかもしれないが、国や県の補助金はどうしても縛られてしまう部分があり、ハードルが高いと思う。

●藤富委員

- ・自然が相手になると緊急性が高いものが出てきて、なかなか計画どおりにいかない。計画と実行は異なる。その観点で流動的な対応できるような体制も必要ではないかと意見を投げかけた次第である。

●片桐会長

- ・それでは、議事（3）について事務局より説明をお願いしたい。

（3）森づくり会議・団地化について

※森林課小山担当長より、資料3について説明

<質疑応答>

●蔵治委員

- ・質問ではなく、補足。先ほど森林環境譲与税について話題になったが、環境譲与税は国レベルで国民全員から森林施策に隔てる税金を集めるもので、本制度における国の狙いは全国の各市町村に豊田市のような役割を担ってほしいというのが主旨。つまり国が全国の市町村に財源をばらまいてやらせようとしている政策を15年前から豊田市は取り組んでいたということであり、森林環境譲与税の使い道の説明責任を果たしているといっても過言ではない。どこの市町村も苦しんでいる中で、画期的な仕組みを15年前に考え出して、実績を重ねてきている、非常にレベルの高い取組なんだという認識で理解してほしい。

●水嶋委員

- ・地域材の利用促進について、そもそもどんな利用と展開を想定しているのか、考えを聞きたい。

●古澤専門監

- ・豊田市はまずは公共事業、公共施設で利用を図っているが、公共施設だけでは当然限界があるので、公共施設以外の非住宅の民間施設で使ってもらえるような方法を検討している。そこで利用してもらうためにはPRが必要であり、そこをウッディーラー豊田が中心となって市がや

りにくい営業活動等を民間企業（会員）の知恵を借りながら取り組んでいる。具体的には令和2年度においては、小物類を中心に製品化し、一般家庭への訴求に取り組んでいる。合わせて建築部材の分野でも利用に繋がるよう調査を行っている。

●水嶋委員

- ・現状、地元工務店が豊田市産材を使うメリットがない。使いたいが、コスト面で難しいところがある。

●古澤専門監

- ・西垣林業豊田工場ができたが、地元の工務店が西垣林業豊田工場に行っても木材を直接購入できず、名古屋の事務所を通さないといけない仕組みになっている。今すぐに豊田工場で売り買いできるようにすることは難しいかもしれないが、現在は豊田工場に相談窓口を設け、地元の工務店から問い合わせを受けることができる体制になっている。また令和2年3月に、豊田市、豊田森林組合、西垣林業で3者協定を結び、公共事業はもちろん、地元の工務店からの要望にも対応していく方針になった。もう一つ大径材をどうするかという課題があり、西垣林業は大径材を扱わないことから、鈴木（禎）委員の製材所で試験的に製材してもらおうなど、地域材の流通においても検証を進めている。

●岡本委員

- ・境界確定に赤色立体図を活用しているとあったが、境界確定だけでなく、路網整備の危険箇所把握にも効果的かと思うがそのような活用は検討しているか。

●森林課 山田

- ・林道の路網設計において、赤色立体図等のデータ活用を試みている。

●鈴木（政）委員

- ・西垣林業の中核製材工場は受け入れ容量満杯に近い状況で材木が入ってきているようだが、中核製材工場ができたことで、県森連が入札方式を止め、自分たちのような自伐林家は定期的に土場まで運んでいる。しかし県森連の処理が追いついておらず、材木が滞っており、自伐林家にとって厳しい状況。中核製材工場稼働によるメリットが感じられない。

●青山専務（オブザーバー）

- ・県森連の人員配置について、当初2人体制であったが、業務の都合で一時的に1人出向していたことで、県森連の処理が滞ってしまっていた。しかし1か月前から人員も2人体制に戻っているため、材木の処理も円滑になっていくはず。

●鈴木（辰）委員

- ・質問ではなく、意見。蔵治委員が発言されていたように、森づくりにおいてここまで行政がのめり込んで関わり実績をあげている事例は先進的。ただ現状の森づくりの流れに目を向けると、地域の関わりは森づくり会議が立ち上がり、杭入れに協力してくれたら後はOKといった形になっており、施業提案会後はせっかく作った組織（森づくり会議）が宙ぶらりんになってしまっているようにも感じる。全国に先駆けて森づくりの実績を挙げている豊田市だからこそ、地域づくりと一体となった森づくりも考えてほしい。木が伸びると田んぼが日陰になる、そういった視点で農業との関わりであったり、作った森づくり会議が地域の自治に活かされるような

仕組みづくり（次のステップ）を期待したい。

●森林課 小山

- ・ご意見いただいたとおり、森づくりと地域づくりは現状離れてしまっている点もあると感じる。支所や地域を森づくりと絡めていきたいと考えているところだが、森づくりは一部の熱心な方々によって支えられている部分もあり、広がりの部分で課題であるとも認識している。今後高齢化を逆手に捉え、余暇の時間をもてる方々ともう一度森づくりについて話し合う場を作り、地域が地域の森を管理していけるような流れにもっていければと考えている。頂いた意見をもとに課内で改めて協議していこうと思う。

●森林課長 川合

- ・鈴木（辰）委員の意見のとおり、森づくり会議の生かし方について考えていかなければならない。他地域の事例など情報を集めながら、次のステップに向けて課内で考えていきたい。

3. 閉会

●片桐会長

- ・それでは本日はこれを以て、令和2年度第1回森づくり委員会を閉会とする。

以 上